ひばりケ丘町防災マップ（地震）

粟野小学校
（敦賀市指定避難所）
災害の状況に応じて避難の必要がある場合に開設します。
1.8km

粟野中学校
（敦賀市指定避難所）
災害の状況に応じて避難の必要がある場合に開設します。
1.6km

デイサービス こばやし
（敦賀市指定福祉避難所）

小規模多機能ホーム こばやし
（敦賀市指定福祉避難所）

猪原病院

ひばりケ丘町会館

グラウンド

6 1 7 8 2 4 5A 5B 3A 3B 9A 9B 9C 9D

凡　例

- 各班集合場所 兼避難場所（所有者了承済み）
- 区集合場所
- 区協力避難先
- 主要避難経路
- 消 消火栓
- ブロック塀・壁（避難時通行注意）
- 蓋なし側溝
- 河川・水路
- 地区境界線
- ○○km グラウンドからの歩行距離

粟野コミュニティセンター
（旧粟野公民館）
（敦賀市指定避難所）
災害の状況に応じて避難の必要がある場合に開設します。
1.0km

自分・家族の安全を確保→黄布を玄関に掲示し各班（区）集合場所へ避難

※裏面に防災マップ（啓発資料）を掲載

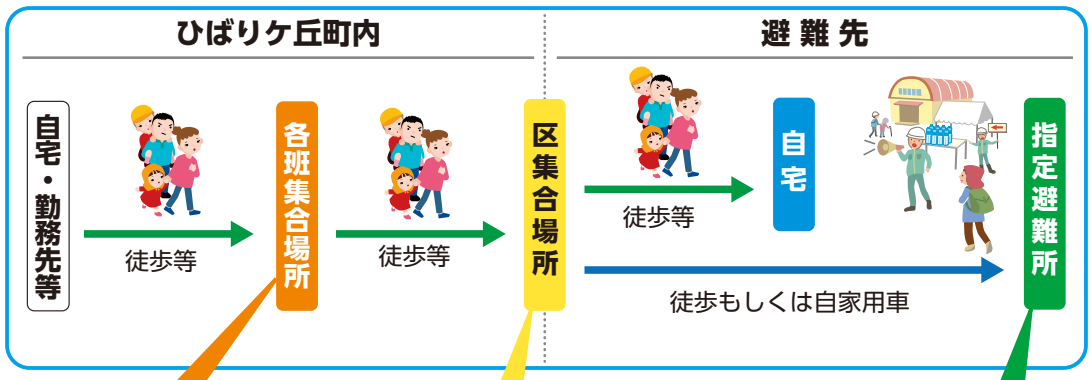
1：2,500　令和8年3月作成

地震発生時の対応

① 家族の安否を確認し、異常がない場合は黄布を玄関に掲示して各班集合場所へ避難
② 避難後、昨年、一昨年の班長は班の家屋を回り安否確認を実施
③ 安否確認後、班で固まって区集合場所（グラウンド）へ避難

※避難時、ブロック塀や電柱の倒壊、屋根瓦の崩落及び側溝への転落に注意!!!

避難の流れ



各班集合場所

発災後、避難や各班で安否確認を行うための集合場所



公園
駐車場等

区集合場所

区が安否確認を含めた被害状況の把握、情報収集・伝達を行うための集合場所

日本原子力研究開発機構
グラウンド



指定避難所

- 自宅が被災し生活が困難な方は、備蓄品を持って指定避難所へ移動（区集合場所で開設状況を確認）
- 自宅の安全が確認できた方は、自宅に戻って在宅避難

〔建物の緊急点検〕
https://www.bousai.go.jp/jishin/kitakukonnan/kinkyuutenken_shishin/index.html
※内閣府防災情報参照

開設された指定避難所もしくは自宅（親戚・知人宅含む。）

地震が起きたら 安全対策10ヶ条

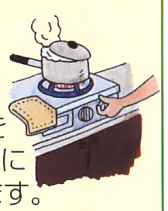
1 まず身の安全を

ケガをしたら火の始末や避難が遅れます。家具の転倒や食器、電灯の落下防止に事前対策を。



2 火の始末は無理をしない

身を守ることが最優先。無理をせず、揺れがおさまったら直ちに火を消し、ガスの元栓を閉めます。



3 戸を開けて出口の確保

震動でドアが開かなくなることも。
戸を開け避難口の確保を。



4 火が出たらすぐ消火

万一出火しても天井に燃え移る前なら大丈夫。落ち着いて消火器で消火を。



5 あわてて外に飛び出さない

急な飛び出しはケガのもと。冷静な判断で落下物に注意。まわりを確認して避難を。



6 狭い路地、ブロック塀には近づかない

ブロック塀や自動販売機は倒壊の恐れが。
周囲に注意して避難を。



7 協力しあって応急救護

地域ぐるみで協力しあい応急救護の体制を。

自助・互助がまず有効



8 山崩れ、がけ崩れに注意

普段から居住地の自然環境を把握して二次災害防止の心掛けを。



9 避難は徒歩で

マイカーでの避難は危険なうえ緊急出動の障害に。ルールを守る心のゆとりを。



10 正しい情報を聞く

事実はひとつ。間違った情報にはまどわされず、ラジオや防災無線で正確な情報を得て行動。





災害時の家庭備蓄



いざ、大地震や洪水被害などの災害が発生した場合を想定した、家庭での食料備蓄もしておきましょう。一例として、ライフラインの復旧までに1週間程度かかる場合の大人2人分の家庭備蓄例をご紹介いたします。各ご家庭に合った備蓄量の参考にしてください。

家庭の備蓄例 1週間分/大人2人の場合

必需品



水2L×6本×4箱
※1人1日およそ3L程度（飲料水+調理用水）

お好みの飲料水もあると便利です。





カセットコンロ・カセットボンベ×12本
※1人1週間およそ6本

主食
エネルギー
炭水化物



お米2kg×2袋
※1袋消費したら1袋買い足す（1人1食75g程度）



乾麺（そうめん・パスタなど）
・そうめん2袋（300g／袋）
・パスタ2袋（600g/袋）



即席麺類×6個



パックご飯×6個

その他（適宜）
・LL牛乳、シリアルなど



主菜
タンパク質



レトルト食品
・レトルトカレー等、18個
・パスタソース等6個



缶詰（肉・魚）
・お好みのもの18缶

副菜 その他
（適宜）



日持ちする野菜
・たまねぎ、じゃがいも等



調味料
・砂糖、塩、しょうゆ、めんつゆなど



即席みそ汁など



梅干し・乾燥のりなど



野菜ジュースなど



お菓子類
・チョコレート、ビスケットなど



効率的に備蓄する「ローリングストック」

普段の食品を少し多めに買い置きし、賞味期限を考えて古いものから消費し、消費した分を買い足すことで常に一定量の食品が家庭で備蓄されている状態を保つための方法です。

補充する ➡ 備える ➡ 食べる ➡ 補充する ➡ 備える ➡ ・・・

災害時のためのトイレの備えチェックリスト

☐ 携帯トイレ



☐人 × ☐回 × ☐日分 ＝ ☐回分
家族の人数 × トイレに行く回数 × 備える日数 ＝ 必要な数

☐ トイレットペーパー



経済産業省では、1か月分（4ロール／人）の備えをすすめています。実際に、どのくらい必要か計ってみてください。

☐ 照明



照明は、両手が自由になり空間全体を照らすことができるものを備えよう。

☐ 手指消毒剤



断水したときも手を衛生的に保つためにアルコールやウェットティッシュなどを備えよう。

☐ ポリ袋



携帯トイレをぬらさないようにするためのポリ袋も一緒に備えよう。

☐ ふたつきの入れ物



においがもれないようにふた付きの入れ物を備えよう。

☐ その他



安心してトイレを使うために他に必要なものがないか考えてみよう。

携帯トイレを備えよう！



携帯トイレとは？
水が出なくなったり、流せなくなったときに洋式トイレに取りつけて使います。うんちやおしっこをためる袋の中に、吸水シートや凝固剤（ぎょうこざい）を入れて、うんちやおしっこをかためます。

携帯トイレの使い方

1 便座を上げて便器にポリ袋を取り付ける

2 便座を下ろし携帯トイレを取り付ける

3 準備完了

4 吸水シートや凝固剤でうんちやおしっこをかためる

5 使ったあとは空気を抜いて口をしっかりと結ぶ

6 ごみの回収が来るまでふたつきの入れものに保管する

※使った後の携帯トイレは、基本的に燃えるごみと一緒に出せますが、事前に市町村に確認しましょう。

出典「特定非営利活動法人日本トイレ研究所ホームページ」